

2012

第44回：大阪大学公開講座

受講申込書

(共通テーマ：)暮らしと科学技術の未来図

■各サブテーマの全講義の受講を希望される場合は、AまたはBのセット受講欄のAもしくはBの文字を丸で囲み、ご記入ください。
サブテーマ内にある各講義を個別に受講希望される場合は、それぞれの「選択受講」欄に○印をご記入ください。

*受付番号	*受付番号
No.	平成24年 月 日

09.12~10.24

サブテーマA：これからのエネルギーを考える			選択受講	セット受講
A-1	エネルギー資源・地球温暖化問題とガスハイドレート (大垣 一成)	<input type="checkbox"/>	サブテーマ A 7講義 全てを受講 7,200円	
A-2	エネルギーの使い方を考える~製品ライフサイクルの視点~ (梅田 靖)	<input type="checkbox"/>		
A-3	太陽光エネルギーは主要エネルギー源になり得るか? (松村 道雄)	<input type="checkbox"/>		
A-4	分散電源による明るい社会~各種分散電源の特徴と大量導入への課題 (三浦 友史)	<input type="checkbox"/>		
A-5	バイオ・再生可能エネルギーの可能性 (三宅 淳)	<input type="checkbox"/>		
A-6	再生可能エネルギーを支える市民活動と法 (大久保 規子)	<input type="checkbox"/>		
A-7	環境政策の変遷から考える、これからの環境イノベーション戦略 (原 圭史郎)	<input type="checkbox"/>		
*講習料 (1講座 1500円) 小計①			<input type="text"/>	円

10.31~12.19

サブテーマB：暮らしと減災を考える			選択受講	セット受講
B-1	2011年東北地方太平洋沖地震から知る、学ぶ、インフラによる減災 (常田 賢一)	<input type="checkbox"/>	サブテーマ B 8講義 全てを受講 7,200円	
B-2	その時、あなたは どうする? -日頃からできること、その時すべきこと- (山本 仁)	<input type="checkbox"/>		
B-3	津波、これまでの歴史的な災害をふまえて生活に生かす-生活防災- (松村 暢彦)	<input type="checkbox"/>		
B-4	災害時における心理的反応とそのケア~医療現場と絡めて~(仮題) (谷向 仁)	<input type="checkbox"/>		
B-5	インターネットを通じた多言語震災情報発信の試み (高橋 明)	<input type="checkbox"/>		
B-6	減災とソーシャルキャピタル (河田 潤一)	<input type="checkbox"/>		
B-7	地震に強い建築と街づくりを目指す (宮本 裕司)	<input type="checkbox"/>		
B-8	次世代の都市・地域づくり-スマートコミュニティと自然の叡智に学ぶまちづくり- (加賀 有津子)	<input type="checkbox"/>		
*講習料 (1講座 1500円) 小計②			<input type="text"/>	円
*講習料 総計①+②			<input type="text"/>	円
(全15講座を受講の方は、9,200円)				

ふりがな	性別	年齢	E-Mail:
氏名	男・女	歳	@
現住所 (〒 -)	(TEL: -)		

お申し込み先

大阪大学公開講座 担当 宛
 (FAX: 06-6444-2338)
 郵送: 〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53 大阪大学中之島センター内
 E-Mail: kousya-syagaku-renkei2@office.osaka-u.ac.jp
 検索: http://www.onc.osaka-u.ac.jp/
 (「申込書」は大阪大学21世紀懐徳堂ホームページからもダウンロードできます。)
 http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/



■中之島センターまでのアクセス
 ◎電車によるアクセス
 ・京阪中之島線...中之島駅 (6番出口) より...徒歩約5分
 渡辺橋駅 (2・3番出口) より...徒歩約5分
 ・阪神本線...福島駅より...徒歩約9分
 ・JR東西線...新福島駅より...徒歩約9分
 ・JR環状線...福島駅より...徒歩約2分
 ・地下鉄四つ橋線・肥後橋駅 (4番出口) より...徒歩約10分
 ・地下鉄御堂筋線・淀屋橋駅 (7・4番出口) より...徒歩約16分
 ◎バスによるアクセス
 ・大阪市バス
 JR大阪駅前バスターミナル発
 53系統 [船津橋行] ...「中之島四丁目」...下車徒歩約1分
 75系統 [鶴町四丁目] ...「田養橋」...下車徒歩約2分
 ・北港バス (中之島ループバス「ふらら」)
 「大阪大学中之島センター前」...下車徒歩約1分



大阪大学中之島センター
 〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53
 TEL 06-6444-2100(代) FAX 06-6444-2338
 http://www.onc.osaka-u.ac.jp/



受講生募集中!

第44回

大阪大学公開講座

暮らしと科学技術の未来図



サブテーマ： **A** 2012.09.12～10.24 これからのエネルギーを考える

講義日時	講義題目	講師
A-1 9月 12日 (水) 午後 6：30～8：00	エネルギー資源・地球温暖化問題とガスハイドレート 人類が地球レベルの環境に直接影響を及ぼすことになった産業革命前後の大気中 CO ₂ 総量変化についての認識を環境歴史学的側面から解釈してみます。京都議定書以降の動向とあわせて現在の CO ₂ 対策の問題点を改めて考える機会とします。エネルギー資源・地球環境問題対策の鍵を握る物質としてガスハイドレートに注目してきましたが、その構造や機能を概説し、CO ₂ の深海底隔離・天然ガスの探掘と輸送・水素の貯蔵と輸送・新規熱媒体探索・ナノ反応場設計など演者らが提案してきた一連の技術開発についても触れます。	基礎工学研究所・教授 大垣 一成
A-2 9月 19日 (水) 午後 6：30～8：00	エネルギーの使い方を考える～製品ライフサイクルの視点～ 本講義では、エネルギーの使い方について考えます。工業製品の省エネ技術は年々高度化していますが、家庭には電化製品が増えてむしろ家庭のエネルギー消費量は増加しています。「こういった問題の構造はどう考えれば良いのか。」「解決するためにはどうすれば良いのか。」について議論します。	工学研究所・教授 梅田 靖
A-3 9月 26日 (水) 午後 6：30～8：00	太陽光エネルギーは主要エネルギー源になり得るか？ 地球に到達する太陽光エネルギーの量は、人類が消費しているエネルギーの 1 万倍にもなります。太陽電池は広く利用されるようになっていますが、その利用をもっと広げるためにはどうしたらいいでしょうか。また、他の太陽光エネルギーの利用法にはどのようなものがあるでしょうか。こうしたことを考えてみたいと思います。	太陽エネルギー化学研究センター・教授 松村 道雄
A-4 10月 3日 (水) 午後 6：30～8：00	分散電源による明るい社会～各種分散電源の特徴と大量導入への課題～ 震災以降、大きな期待が寄せられている太陽光発電や風力発電、燃料電池、蓄電池などの各種分散電源の特徴を整理するとともに、電力系統から見た分散電源大量導入に関する技術的な課題についてわかりやすく解説します。	工学研究所・准教授 三浦 友史
A-5 10月 10日 (水) 午後 6：30～8：00	バイオ・再生可能エネルギーの可能性 バイオマスを中心とした再生可能エネルギーについて考えます。いずれも気候条件、生活方法などにより資源の質と量が大きく異なること、希薄に存在するため集荷コストが極めて大きいこと（セントロピーの問題）から、石油などは異なった利用形態が求められます。社会の構造や消費者の生活も変わらざるを得ないでしょう。「可能なこと、可能でないことは何か」を議論したいと思います。	基礎工学研究所・教授 三宅 淳
A-6 10月 19日 (金) 午後 6：30～8：00	再生可能エネルギーを支える市民活動と法 今年、日本では新たに再生可能エネルギーの固定価格買取制度がスタートします。再生可能エネルギーを促進するため、私たち市民は何をできるのか、また、そのための法的課題にはどのようなものがあるのかを考えます。	法学研究所・教授 大久保 規子
A-7 10月 24日 (水) 午後 6：30～8：00	環境政策の変遷から考える、これからの環境イノベーション戦略 日本がこれまで経験してきた様々な環境問題やエネルギー・資源問題の特徴と、これらの課題を克服するために採られてきた環境政策・技術対応の歴史展開を俯瞰する中で、これからの持続可能な社会形成に向けたヒントを探ります。また、中国などアジア地域にも目を向け、これらの地域で現在起きているエネルギー・資源問題の本質と現状、および今後の対応の在り方についても考察します。	環境イノベーションデザインセンター・特任准教授 原 圭史郎

●募集要項

●対象者 及び 定員

- ・対 象：一般市民・学生
- ・定 員：各サブテーマ別 70名【**先着順**】（*定員になり次第、締め切ります）

●受講証書：サブテーマ A を 6 回、サブテーマ B で 7 回以上出席された方には、受講証書をサブテーマ別にご郵致します。

- 講習料

：サブテーマ A（7 講義をすべて受講する場合）	7,200 円
：サブテーマ B（8 講義をすべて受講する場合）	7,200 円
：サブテーマ A・B の両方（15 講義をすべて受講する場合）	9,200 円
：全 15 講義のうち 1 講義～数講義を選択受講する場合	1,500 円／1 講義当り。

サブテーマ： **B** 2012.10.31～12.19 暮らしと減災を考える

講義日時	講義題目	講師
B-1 10月 31日 (水) 午後 6：30～8：00	2011 年東北地方太平洋沖地震から知る、学ぶ、インフラによる減災 地震のたびに、社会基盤（インフラ）の重要性が再認識されますが、東日本大震災で果たされたインフラの機能あるいは復旧から減災を知って頂くとともに、インフラの津波災害の現地調査から学んだ減災に関する知見およびその知見を実証するために取り組んでいる研究を紹介し、津波に対する減災を考えていきます。	工学研究所・教授 常田 賢一
B-2 11月 7日 (水) 午後 6：30～8：00	その時、あなたは どうする？ 一日頃からできること、その時すべきこと 大地震などの災害から自分自身の生活を護るために何ができるのか。日頃からの小さな工夫の積み重ねがいざという時の被害を最小限に抑えてくれます。本講義では、日頃から簡単にできる対策やその時の対応について、東日本大震災での大学研究所の被害やその後の対策などの実例を紹介しながら考えていきます。	安全衛生管理部・教授 山本 仁
B-3 11月 14日 (水) 午後 6：30～8：00	津波、これまでの歴史的な災害をふまえて生活に生かすー生活防災ー 過去の災害の経験は過信するには危険すぎ、役に立たないものとして捨ててしまうにはもったいないです。過去の災害時にとつた行動を共有することで、災害時はもちろんのこと日ごろの生活をより豊かにしてくれるヒントが隠されています。	工学研究所・准教授 松村 暢彦
B-4 11月 16日 (金) 午後 6：30～8：00	災害時における心理的反応とそのケア～医療現場と絡めて～（仮題） 災害は突発的に起こるものであり、事前にその出来事を予期して日々強固に身構えている人はほとんどいないでしょう。災害に直面することにより人の心は大きなダメージを受けます。そして災害直後の急性期からその後の経過においても様々な心理過程を経験します。これは医療場面における突然の致死的な疾患との直面（例えば、がんの告知など）とその経過において生じる心理的反応と似ている点が多くあります。本講義では、災害時における心理的反応とそのケアについて、特にがん医療における心理的反応と絡めながら皆さんと一緒に考えたいと思います。	医学系研究所・特任助教 谷向 仁
B-5 11月 30日 (金) 午後 6：30～8：00	インターネットを通じた多言語震災情報発信の試み 東北大震災が発生した際、日本語、英語などによる情報を理解することが困難な在留外国人たちに、彼らの言葉で情報を発信することで、少しでも不安を取り除き、助けになれないかと考えて、「世界言語研究センター（当時）多言語震災情報」HP を立ち上げて、新聞記事の翻訳、放射能情報の翻訳、その他震災ボランティアなどに関する情報を多言語で発信しました。その経緯、経験について。	理事・副学長 高橋 明
B-6 12月 7日 (金) 午後 6：30～8：00	減災とソーシャルキャピタル 互酬性の規範や、信頼のネットワークといった社会的な関係性、つまりソーシャル・キャピタルは、減災という共同事業に向けた市民社会組織間の連携を促します。減災への取り組みを成功 (success、語源的には <to go from under>) させるには、<from under> からの都合形成の場を民主的に運営して行くことが欠かせません。ソーシャル・キャピタルはこの点でも有効な資源なのです。	法学研究所・教授 河田 潤一
B-7 12月 12日 (水) 午後 6：30～8：00	地震に強い建築と街づくりを目指す 過去の大震災における地震被害を振り返り、将来起こる巨大地震に対してどのように備えるかを考えるため、地震の強さと建築被害の関係について分かりやすく説明し、地域での被害想定と減災に向けた耐震技術について話をします。	工学研究所・教授 宮本 裕司
B-8 12月 19日 (水) 午後 6：30～8：00	次世代の都市・地域づくりースマートコミュニティと自然の叡智に学ぶまちづくりー 東日本大震災後、限られた資源を効率的に活用し、持続可能な社会を構築するまちづくりのあり方に注目が向けられています。本講義では、情報通信技術や先端技術の活用による「スマートシティ」、「スマートコミュニティ」の取り組みや、低環境負荷で循環型社会を実現している自然の叡智に学ぶまちづくりについて論じます。	工学研究所・教授 加賀 有津子

* 受付期間中に受講取消のお申し出があった場合は、所定の手続きにより、後日全額をご返金いたします。
なお、受付期間終了後に受講取消のお申し出をされた場合は、ご返金をすることが出来ませんので、ご了承ください。

●申込方法

- ① 下記受付期間中に所定の「受講申込書」（裏面）に、必要事項をご記入の上、郵送、ファクシミリまたは E メールで送付願います。E メールでお申込の方は、大阪大学 21 世紀懐徳堂ホームページから「受講申込書」をダウンロードして下さい。
<http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>
「受講申込書」の記載事項を確認した上で、折り返し「受講決定通知の連絡」を「電話」もしくは「E メール」にて行います。
- ② 受講決定の連絡を受けた方は、下記に記載の受付期間内に、「講習料」を指定振込銀行口座へ受講者のご氏名で、お振込願います。なお、振込による手数料等については、ご本人様負担とさせていただきますので、ご了承ください。

口座名：三菱東京 UFJ 銀行 茨木支店 普通預金 1502217
口座名義：オオサカダイガク シャガクレンケイカ（大阪大学 学学連携課）

受付期間：サブテーマ A「これからのエネルギーを考える」 8月27日（月）～9月7日（金）
サブテーマ B「暮らしと減災を考える」 10月15日（月）～10月26日（金）

- * 受講申込について、原則として各サブテーマ別に受付期間を設けますが、サブテーマ A と B の両方（全 15 講義）を受講される方は、優先して事前に受付いたします。
- * 先着順としておりますが、定員を超える場合は、サブテーマの全講義を受講される方を優先させていただきますので、ご了承ください。



水都大阪の中心、中之島で
新たな学問、始めませんか。

大阪大学 21 世紀懐徳堂 は ^{スカルフ} 東日本大震災プロジェクト (SQALF) に取り組んでいます。

2011.4.29
大阪大学【緊急】シンポジウム開催

2011.6～8.31
SQALF ページ公開、質問受付

2011.9.14～12.16
第 43 回大阪大学 21 世紀懐徳堂講座を「防災・復興」関連テーマで開講

2012～復興の未来へ大阪大学講座と改称、新たな展開へ！

本講座は、2011 年 4 月開催の「大阪大学【緊急】シンポジウム」を受けて始まった「SQALF～大阪大学 21 世紀懐徳堂・東日本大震災プロジェクト」の一環として位置付けられます。このプロジェクトは、大阪大学の研究者が、市民のみさんと共に「震災・復興」を考える場を、シンポジウムや講座、WEB サイトといった形で設けていきます。詳しくは、大阪大学 21 世紀懐徳堂ホームページをご覧ください。



大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4 - 3 - 53 TEL 06・6444・2100 (代) FAX 06・6444・2338
<http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>